

間違いを恐れない



好きな食べ物ラーメン

新ALTのゲル・ピーター・イシュトゥヴァン先生が8月28日から旭工で英語科の先生と一緒に授業をしている。14歳までをハンガリーのデブレツェンで過ごした後、23歳まで英国のオセットで過ごした。昨年8月に旭川に来了。旭川

旭工生ともしっかり話したい

新ALTゲル・ピーター・イシュトゥヴァン先生

の印象は「都会の雰囲気を感じられ、自然も身近にあるところが気に入っている。バランスが良い地域だと思つ。旭川のいろいろなラーメン店で食べ歩きをしたい。また、北海道各地でハイキングやキャンプをしたい」という。

ピーター先生は「昔から日本にきたかったが、大学生の時にはコロナの影響で来ることができなかった。ALTになって日本で働くこ

とで、文化や人々について知る良い機会になった。旭工生はおもしろい。思っていたよりも堂々としていて、臆することなく意見を言ってくれるのでとても良いと思つて

旭工生に向けて「英語を話すときは間違いを怖がらないでほしい。僕は英語の勉強を始めて11年になるが、まだ間違えることがある。間違えるのは大事なことです。間違えなかつたら人は挑戦しないし、学

びは生まれなかつた」と話した。

生徒会役員選挙

13人全員が信任

上口会長「より良い学校に」



会長に信任された上口護君(情2)

選挙には13人の生徒が立候補し、立会演説会では推薦責任者と一緒に演説をした。その後、教室に戻り各クラスでグーグルフォームを利用して投票した。開票の結果、全員が信任された。投票率は90.5%。グーグルフォームの利用は今年で3年目だ。

生徒会役員選挙の立会演説会が9月18日の1時間目に体育館で行なわれた。投票は教室で行なわれ、昨年に引き続きグーグルフォームを利用した。13人が立候補し開票の結果、全員が信任された。

昨年の反省点を改善

グーグルフォームを継続利用

生徒会長の上口護君(情2)は「全校生徒の学校生活を大切にする。役員同士で協力してより良い学校にしたい」と意気込んでいる。

選挙を担当した生徒会の松山淳先生は「3年生の就職試

生徒会役員

- | | |
|-----------|------------|
| 会長 | 上口 護(情2) |
| 副会長 | 熊谷 慶嗣(機2) |
| 書記長 | 高杉 涼介(情2) |
| 書記次長 | 下田 遥斗(土1) |
| 会計長 | 島 鼓汰郎(土2) |
| 会計次長 | 越智 勇太(土1) |
| 生徒会誌編集委員長 | 佐々木 悠人(機2) |
| 体育委員長 | 架田 祥喜(情1) |
| 行事委員長 | 今 宙陽(電1) |
| 議会議長 | 下村 夏輝(建1) |
| 議会副議長 | 松林 寿晃(化1) |
| 監査委員長 | 下口 泰史(土2) |
| 監査副委員長 | 佐藤 拓海(化1) |

験と時期が重なり、欠席者もいたが、投票率が90%を超え



市役所に展示された卒業設計

建築科の卒業設計作品展示が8月20日、9月1日に旭川市役所の総合庁舎1階エントランスホールで行なわれた。平成27年度と令和2～5年度の卒業設計作品9点と旭川市役所のベンチに使った廃材を利用した「こっぴーホルダー」が展示された。令和2～5年度の作品は日本建築学会北海道支部主催の「卒業設計コンペティション

市民に知ってもらおう

建築科 卒業設計作品展示

工業高校の部」で入賞した作品だ。展示を見た小堀瑠海さん(建1)は「母からおもしろかったと聞き、副担任の笠木元太先生にも勧められたので見に行った。手作りキーホルダーや市役所と買物公園の施設の設計が展示されていた。それぞれ細かく作られていて、見ていてとてもおもしろかった。特に街を上から一望できる写真は普段見る街とは違い良かった」と話した。

建築科の前野潤先生は「建築科のことを市民に広く知ってもらうために行なった。主に年配の方々や市職員の方々が見てくれた。来年度、旭工の受験者が増えることにつながるかどうかは分からないが、学科がやっていることを地域の人たちが見てくれたことによって自信になった。市役所に展示したのは今回が初めてだが、11月頃にも地域に貢献しているものづくりの作品を展示する予定なので旭工生もぜひ見に行つてほしい」と話した。

たのでとても良かった。グーグルフォームでの投票は部活動の大会や体調不良で欠席した生徒も投票できるので今後継続していく予定だ」と話した。また「今年は学校アカウンツのみの投票にしたので、昨年のように担当教員がどの生徒が誰に投票したのかが分かるというところはなくなった」と話した。

反省点は「選挙管理委員会に開票日の放課後に結果の確認

をする連絡を事前に伝えていなかった点。放送で知らせ、放課後に急に来てもらうことになったので、来年は連絡ミスに気を付ける」と話した。

今後について「告示をしたときに立候補者が少なく、担任の先生たちの呼びかけでなんとか集まった。役員がいないと生徒会行事ができないので、もっと皆がやりたくなるような生徒会活動にしていくべき」と語った。



皆さんはAEDについて知っているだろうか。私は中学生の時、宿泊研修で消防署を見学した際に一度だけ研修を受けたことがある。この研修で私はAEDの存在を初めて知り使い方を学んだ。AEDの使い方を知らない良い機会だった。旭工ではAEDが3か所に設置されている。職員玄関と3階の演劇部室の隣、あと一つは野球部が保持している。▼AEDの正式名称は自動体外式除細動器だ。元々は医療従事者にしか使用は認められていなかったが、20年前から一般人も使用できるようになった。▼AEDの役割は心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失ったときに電気ショックを与え、正常なリズムに戻すことだ。電気ショックで身体に副作用が出ることはない。9月15日の朝日新聞によると、現在、AEDは全国に69万台設置されている▼設置台数の割に使用数は少なく、設置場所も分かりづらいということが課題になっている。AEDを使うことによって心臓が原因で倒れた人の救命率は高くなる。使い方が分からなくても音声ガイドに従えば大丈夫だ▼学校以外ではスーパーや公共施設などに設置されている。旭工の向かいにあるザ・ビッグにも設置されている。緊急時には冷静に対応することが命を救うことにつながる。皆さんもAEDのある場所を確認し、いつでも対応できるようにしよう。緊急時には落ち着いて行動することを心がけよう。(化2高橋)

北海道警察 少年
サポートセンター

相談から立ち直りまで 非行後のサポートが大切

新聞局は8月9日に北海道警察旭川方面本部生活安全課の少年サポートセンター取材し、その役割と最近の少年非行について話を聞いた。

対応してくれたのは生活安全課の次席である北海道警部の瀧谷研さん、少年育成係主任で公認心理師でもある少年育成専門官の竹次千紗都さん、公認心理師で少年育成専門官の岩岬慶明さんの3人だ。



取材に応じる少年サポートセンターの皆さん(左3人)

少年サポートセンター(サポセン)は全都道府県警察に設置されている。少年問題に関する警察の専門職員が中心となり、関係機関やボランティア団体などと連携し、少年の抱える複雑多岐な個々の問題状況に応じて、少年相談、街頭補導、継続補導、少年の居場所づくり事業などの幅広い活動を行なっている。

旭川のサポセンは1999(平成11)年4月に設立された。現在のスタッフは専門職員の少年育成専門官4人を中心に警察官3人及び警察官OBのスクールサポーター2人の計9人である。

少年相談

家庭内のお金や カード持ち出し

最も多い相談は家庭内のお金やカードなどの金品持ち出しだ。大まかな理由は「欲しいものを店から盗るわけにはいかないため」「家庭に居場所がなくお金を使ってストレ

非行に走らないために

ヘルプを出す勇気を

誘われても断る

少年育成専門官の竹次千紗都さんと岩岬慶明さんは少年が非行に走らないため次のようなことが大事だと話した。竹次さんと岩岬さんは公認心理師でもある。

まずは自分が非行を犯さないように自分を大切にする。信頼できる大人にSOSを出せる環境づくりが大切。非行を止めてくれる友達や自分に寄り添ってくれる人が周囲にいたらリスクが減る。次に危険

ス発散をするため」の二つだ。

例えば、子どもが親のクレジットカードや電子決済アプリ

非行の最多は万引きと窃盗

と行 不良行為 非

「深夜はいかい」が一番多い

少年の非行で一番多いのは万引きや窃盗である。旭川市でも北海道でも一番多く、非行の約50%を占める。

次に多いのは、殴り合いなどの粗暴犯で10〜20%。非行

に走る理由は、本人の性格や家庭環境、交友関係や学校適応など、色々なことが関係しており、データとして集計はできない。イメージとしては「居場所がない」「居場所があっても安全・安心な場所

ではない」のが主な理由だと感じている。似たような環境の子どもが集まって、悪いことを行なっている。

非行が一番多いのは17歳である。高校生だけではなく、有職少年や高校をやめた少年、仕事にも学校にも行っていない少年がいる。薬物で一番多いのは大麻で、16歳を境に増えていく。

「深夜はいかい(23時から4時)」が一番多い。飲酒や

リを勝手に使用し、親に請求が来て分かったという事後相談が多い。家庭で子どもを指

なところに行かないとか、誘われても断れるという「してはいけない」ことについて感性をみがくことが大事。

特に今はSNSで知らない人とつながれる時代。SNSの使い方や個人情報について軽視しがちなのが心配である。SNSを通じて闇バイトや薬物などの誘いもある。

困ったとき「上手に断る」スキルや「ヘルプを出す」スキルを身に付けてほしい。学校や友達など、適切な人にSOSを出す感性も大事になる。誘われるものやどんな状況かでリスクは変わる。SOSのスキルをどうやって身に付けていくのかも日頃から考え、急を要するときはすぐに110番通報をしてほしい。闇バイトに知らない間に加担してしまうケースが多い。おかしいと

仲間内のLINEから悪口が広がったり、いじめなどのトラブルになったりしている。「裸の写真を送れ」といわれ送ってしまうケースもある。こどもの薬物では大麻が一番多い。北海道は令和4年が44人、令和5年は60人と検挙者数が過去最多を更新している。

SOSを出すことは難しいかもしれないが、ヘルプを出す勇気を持ってほしい。

相談もある。薬物等の事件に関する相談は、サポセンではなく警察署での対応となる。

的には子ども一人ひとりに合った活動をしている。学生ボランティアや他機関と協力して成績向上や高校合格、復学を目指した「学習支援」、仕事を見つける「就労支援」、少年補導員や学生ボランティアとともに農作物を育て収穫を体験する「農業体験」、高齢者施設や障害者施設への訪問や地域貢献などの「ボランティア活動」などを行なっている。

「JUMPプラン」とは別に相談対応の協力機関として、旭川市の子育て支援課やいじめ対応の部署、児童相談所や少年鑑別所、家庭裁判所などと連携し、助言をもらうこともある。小中学校とは少年相談や継続補導での連携が主で、高校とは保護者が望む場合に連携することもある。

あることを学んだ。そして犯罪に至るまでの経緯も人それぞれであると分かった。犯罪を犯した理由について理解することも大事だと感じた。今回の特集で非行の未然防止の大切さや少年サポートセンターの良さが読者に伝わるとうれしい。(電子稲留)

少年サポートセンターの活動内容

(1)少年相談

少年や保護者、学校などから非行問題や犯罪被害者等の悩み、困りごとの相談を受け、解決に向けた助言などを行なう。

(2)街頭補導

喫煙や家出、夜遊びなど不良行為少年を発見して補導し、少年や保護者に指導や助言を行なう。

(3)継続補導

問題行動のある少年の非行防止や立ち直りを図るため、継続的な助言・指導を行なう。

(4)少年の居場所づくり事業

通称「JUMPプラン」

農業体験やボランティア体験などの社会参加活動を通して、少年の規範意識向上を図っている。

(5)広報啓発活動

非行防止教室の一環として「自分の大切さを実感させる教室」を行なっている。実際の事例を通して、その背景、少年や保護者の思いを心に訴えかけ、少年の自尊感情を高めることにより、非行や犯罪被害の未然防止を図っている。

※少年相談専用電話 0120-677-110

取材を終えて

私は取材を通して警察署の職員は怖くて厳しい人だというイメージが大きく変わった。取材当日の朝、東警察署の玄関前で局員と待ち合わせをしていた。普段からパトカーを



少年非行について話す竹次さん(左)

JUMP プラン

少年の居場所をつくる 規範意識の醸成を目指す

「Juvenile Make Place(少年の居場所をつくるの意味)」のアルファベットを合わせ、通称

場所をつくるの意味)」のアルファベットを合わせ、通称

見ただけで心配になってしまいう私は、警察署の敷地にいるというだけで正直とても怖かった。また、顧問の先生はいたが、他の局員がなかなか来ないので、職務質問をされるかもしれないと不安だった。しかし、そんなことはなかった。警察署に入り守衛の方に挨拶

すると、笑顔で挨拶を返してくれた。職員の方が来るまでロビーで待機している間も何回か職員の方に挨拶をしたが、テレビで見るとような厳しい表情をする人はいなく穏やかな印象を受けた。取材する部屋に案内され質問をしたときも優しく答えて

いただいた。取材後は、警察署は誠実な方々がいるところというイメージに変わった。また私は、罪を犯した人は「悪い人だ」と最初から決めつけて考えていた。しかし、取材をしてからその考えは変わった。少年犯罪を犯した人には事件に至る様々な理由が

あることを学んだ。そして犯罪に至るまでの経緯も人それぞれであると分かった。犯罪を犯した理由について理解することも大事だと感じた。今回の特集で非行の未然防止の大切さや少年サポートセンターの良さが読者に伝わるとうれしい。(電子稲留)